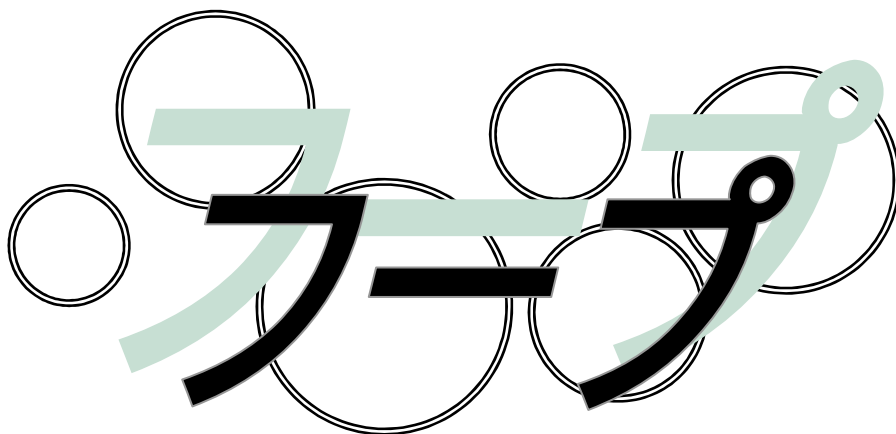




～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2012 年 春 号
第 70 号



出石小学校

目 次

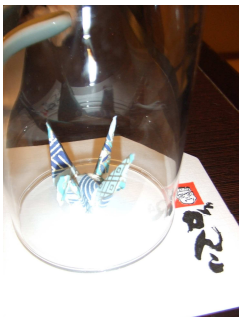
■ 全国女性建築連合協議会 京都大会に参加して ①		山下 宜子	1 ページ
■ 全国女性建築連合協議会 京都大会に参加して ②		山本 規子	2 ページ
■ 出石ツアー		庄田 尚子	3～5 ページ
■ 私の仕事 いろいろ		上田 壽子	6 ページ
■ 私と建築		大原 道江	7 ページ
■ 今後の行事予定と編集後記			8 ページ

～全国女性建築士連合協議会 京都大会
に参加して～ ①

山下 宣子

これまで、全建女の全国大会に出席させていただいたのは、自分が所属している奈良大会のみであり、それ以来、なかなか参加の機会がありませんでした。でも、このところ、各都市で景観政策が掲げられる中、今回の【景観まちづくりからコミュニティの再構築へ】—京都で考える、日本のまちのくらし—……というタイトルに惹かれ参加させていただきました。

昨年の3月11日の東日本大震災をうけ、延期から開催に至る経緯をお聞きして思い巡らせると、今回の京都大会実行委員長が、感無量に声を詰まらせご挨拶された気持ちが痛く伝わってまいりました。第1日目の高田光雄氏の基調講演は、京都の景観政策が、二つのアプローチ（風致・美観アプローチ・まちづくりアプローチ）からなされ、どのような協議の変遷を経て今に至ったかの話でしたが、気が遠くなるような階段があったんだと痛感しました。眺望景観政策や屋外広告物規制から始まる新景観政策は、1200年を超える京都の歴史の中で育まれてきた京都独自の景観を守っていこうという強いメッセージが伺えます。さらには地域住民との価値の共有を目指して、さらなる協議が続けられているようです。又、被災地の岩手県・福島県・宮城県からは、被災と復興状況が話され、胸が痛い現状を知らされました。……夜は懇親会ががんこで開かれ、京都ならではの舞妓さん・芸子さんも登場し【京からかみ】のおみやげもあり、と心遣いが感じられました。



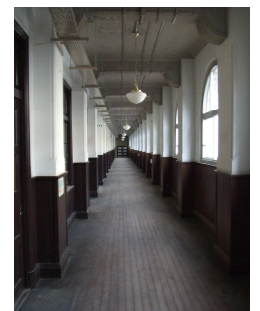
私も、家づくりに携わってもう25年になる中、これまでは家の中の住み易さ……それは動線であつたり、部屋の窓からの景色であつたり、屋内に重きを置く割合が大きかったのですが、最近では外観の

重要さ、その地域との溶け込みがもっともっと大事だと気持ちに変化してきています。又道の周囲の状況、見え方というものが、見る人の心にどう影響するか……もよく考えるようになりました。

私の実家に行く時にいつも通る道すがらには桜並木があり、春になると車で通るだけで楽しい気分になります。その気分を大事にして、私は、多くの分譲地を街づくりから携わる時には、道行く人がこの一角を通ったら、まるで異空間に入り込んだような幸せな気持ちになれる……そんな風な街づくり（外構計画も含む）ができればいいなと思っています。ただ、たまに心無い住人がいて、自分がその土地を選んでおきながら、景観規制に背を向けられるんです。そんな時、自分達も将来はその美しい街並みの恩恵を受けるのに……と情けなく思う時があります。やはり、罰則を設けないと従わない人もいるのかな。悲しい事です……。

新しい1つ1つの街づくりから～残したいものとの調和を考えながら、～都市全体の景観へと、皆が心一つになって整えていこうとする姿勢というものを、今回の全国大会に参加して—【京都】—から感じさせていただきました。

あくる日のフィールドワークに私が選んだのは、秦家と修徳学区ですが、ラッキーな事に夜の間に結構雪が降り、二度と見られないような美しい景色を眺めながらの散策になりました。



～全国女性建築士連合協議会 京都大会
に参加して～ ②

山本 規子

東日本大震災のため、前年の夏祇園祭の頃を予定していた京都大会は、残念ながら一旦中止となりましたが、明けて24年2月17日、18日、同じ京都の地で無事開催されました。例年参加人数は、300名ほどですが、今大会は、魅力的な場所柄に加えて、震災後初めての全国規模の大会に際し、各方面からの想いが集まったためでしょうか、500名に上の仲間が集まりました。

大会は、基調講演に先駆け、震災で大きな被害を受けた、東北の岩手、宮城、福島の三県から、被災状況と現況について報告がありました。

各種メディアを通じて見聞きしている被害の状況も、人的被害はもとより、応急危険度判定や、被災住宅相談に携わっている建築士からの話には、被害にあった住居に住んでいた方々の生活の重みが伝わってきました。岩手、宮城は復興を達成するまでには10年余、福島にいたっては、原発問題の為、めどすら立っていない状態の中、各県から現状で最も必要とされ、生活の質に係わる仮設住宅についての発表がされました。

初期の供給は、ほとんどがプリアグ協会からのもので、資材不足の中、速さ優先で大量供給を担った訳ですが、ユニバーサルデザインではない、東北の気候に合っていないなど、様々な問題点がでてきたようです。後に、地元事業者からの提案公募で建設されたものは、無垢材仕上や、ある程度の断熱性能も備えたものなどもみられ、加えてこれらを建設することが、地域の雇用確保や、地域材の活用の効果に結びついたそうです。

その中でも、被災地に隣接した岩手県の住田町は、以前から町産材を使った仮設住宅を構想し、準備を進めていたことから、震災1週間後には着工にこぎつけることができたそうです。杉集成材の軸組みと、断熱材を挟んだ杉無垢材のパネを組み合わせ、木の温かみにあふれ、施工性もよく、リサイクルまでかんがえられた優れたもので、入居者の方から大変喜ばれているようです。

現在この地の女性委員会では、少しでも気持ち良く生活してもらえるよう、皆の声を拾い集めて調査をすすめており、息の長いサポートをしていきたいと結んでいました。

このたびの震災に対しては勿論のことですが、今後30年以内に起きる可能性を大きく報道されている東南海地震に向けても、我々に何ができるか、何をしなくてはならないかを真剣に考える、それも早急に考え、実行していかなければならないと強く感じました。



今大会のテーマ～京都で考える 日本のまちとくらし～の基調講演の中で、「近年のまちづくりの現場では、明確な管理ルールは必要であるが、活動する組織は、地域住民に限定せず、外部の支援団体に参加を求めること、外部の支援団体は、ゲストではなく明確な役割をもって応分のリスクも負担して参加することが重要である。」というお話があり、また、「各地の建築士は、この外部の支援団体としての役割が大いに期待されている。」ともおっしゃっていました。日々の仕事で手一杯の時、中々周りが見えなくなっていますが、お手伝いできそうな、又は勉強させていただきそうなお誘いが結構あります。今年は、一歩踏み出すため、躊躇している自分の背中を押せたらいいかなと思いました。

底冷えがすることでは有名な京都ですが、市内で積雪をみるのはめったにないとの事、参加の皆様の日頃の行いがよほど良かったせいで、珍しい雪景色を楽しめた2日間でした。

出石ツアー

庄田 尚子

兵庫県豊岡市出石町の見学ツアーが行われました。出席者は、女性委員会 16 名、その他の方々 6 名の計 22 名でした。当日は、春分の日も目の前だということにとっても寒く、あいにくの小雨のお天気でした。朝 7 時バスで大和八木駅を出発し、近鉄奈良駅集合グループと合流し、出石へと向いました。

まず、初めに宮脇檀さん設計の斉藤隆夫記念館（静思堂）に到着しました。



（静思堂アプローチより）

今回の見学では、地元出石町で設計事務所をされている福岡隆夫さんに親切にも 1 日お付き合いいただき、案内していただきました。福岡さんは、地元で古民家再生や、伝統的街並み保存など地域活動にも熱心に取り組まれている方で、ここ静思堂で月 1 回街づくり塾を開催されているそうです。



（福岡隆夫氏の説明を受ける）

静思堂は、「自分」を見つめる時間を空間化されたものだということで、私も床の上に腰を下ろして

長い庇越しに庭を望み、心静かに少しの時間を過ごしてみました。



（静思堂 縁より）

また、赤味がかった外壁は、宮脇氏の考えられるところの出石色であり、福岡さんによると実際の出石カラーと少し異なっているというお話でした。実際の出石カラーに早くお目にかかりたいと思いました。

続いて、いるか設計集団設計の弘道小学校に向かいました。小学校はメインストリートを横ぎり、町の北東部の高台にあります。当日は、初午のお祭りが行われており、通りは出店とたくさんの人出で賑わっていました。バスは、エライ日にお邪魔しますという感じでやっと小学校へ到着しました。お約束の時間に遅れてしまったのに校長先生があたたかく出迎えてくださり、学校の沿革のお話を伺った後、学校内を案内していただきました。



（弘道小学校会議室で校長先生の説明を受ける）

日影部分にはまだ屋根から落ちた雪がどっさり残り、真冬はどんな様子だったのかと心配になるほ



(まだ残る屋根から落ちた雪)



(中庭からの低学年教室群)



(玄関で校長先生と記念撮影)

どでした。竣工してから約20年が経ち、いづれか改修工事が加えられていましたが、クラスター型に一つ一つ廊下で繋がれた教室群を廻っているといろんな場面が想像でき、非常に楽しい気分になりました。毎日わくわく気分に通学してくる子供たちの様子が目に浮かびます。校長先生は、110数個の

鍵の施錠と防犯に気を使われているそうです。

そして先ほどのお祭りが行われていた通りにもどり、出石そばの昼食を頂きました。皿そばは、こしがあり、よい香りがしていましたが、寒さのせいか蕎麦湯が一番おいしく感じました。

午後からは、通りから少し入ったところにある豊岡市立出石史料館(旧福富家住宅)を見学しました。一部改修工事中のため、すべてを見ることができませんでしたが、鋳物を扱う商家と出石藩の資料が展示される土蔵を見ることができました。驚いたのは、囲炉裏のある部屋の大きな神棚です。何の神様かわかりませんがタテヨコ 1.5mぐらいの大きさで上部から、この家を見守っておられたのかと思うととても心強い感じでした。



(福富家ナカノマの神棚)

次に築300年の酒蔵(出石酒造)を見学に行きました。



(出石カラーの酒蔵)

明治初期、江戸後期建築の長い年月を経た味わい深い土壁の蔵が雁行した道路に沿って建っています。

何年か前、台風で壊れた部分を「出石城下町を活かす会」で修理をされ、また屋根の改修もされたそうです。

ここで、福岡さんのおっしゃる出石カラーの外壁にご対面です。確かに宮脇氏の色とは少し違い、やや黄色がかっているような感じがしました。地酒「楽々鶴」というお酒をつくっておられ、試飲と販売をされています。土間を抜け、酒造場2階は時々ジャズコンサートが催され、地域住民などにまちづくりの活動を広めておられるそうです。

また、福岡さんが手がけられた伝建地区の再生町家の上坂邸を見学させていただきました。

上坂邸は当時、油屋を営まれており、通りから奥まで非常に長く（約60mほど）奥から店先まで油を運んで商売をされていたそうです。その油運搬のためのレールはシンボルとして土間に残されていました。その上坂邸をレール沿いに通る庭を通り抜けさせていただき、裏通りから永楽館へと向かいました。



(永楽館外観 旧弘道小学校の水色の鍔戸)



(平棧敷に座って)

永楽館は明治34年開館の芝居小屋で昭和39年に閉館しましたが、平成20年に約20年の復元活動を経て、再生されました。

外部開口部の鍔戸は旧弘道小学校のものが使われており、町の思い出があちらこちらで繋がっているのが興味深かったです。

芝居小屋自体が初めてだったので平棧敷、2階枳席などの客席に座り歌舞伎が演じられていたところの様子をあげてみました。舞台には、太夫座や囃子場には、当時の義太夫、三味線、太鼓演奏者の落書き(?)がそのまま残っていました。廻り舞台やセリがあり、奈落では、廻り舞台装置を実際に動かす体験もさせていただきました。



(奈落で舞台装置を廻す)

最後に出石そばのお土産を買い、帰路につきました。出石日帰りツアーは、ハードなスケジュールでしたが、出石の伝統的な建築と親切な人たちにふれ、行政も地域住民も熱心に町づくりや景観形成に取り組んでおられていることがよくわかる感動の一日でした。

1. 今ようやく終わったのが、奈良市の小学校の耐震補強工事の設計です。もう小学校など少子化で建て替えなどなく、今ある校舎の耐震補強工事というのがこれからの課題です。奈良県は確か耐震化率が非常に低いそうです。あまり面白くもない仕事ですが、やはり何もかも一度は経験しておかないと、全くわからずじまいになってしまいます。今できることを今やっておく・・・というのが私のスタンスです。補強は大手メーカーの工法による物が多いですが、今回は在来の鉄骨による補強と決められました。新しい言葉がいくつも出てきて、そのつど共通仕様書をひっくり返します。この仕事に入札から9ヶ月を要しました。この校舎はスチールサッシが使われており今回カバー工法でアルミサッシに変更しますがサッシメーカーによると内はずし式サッシというのは奈良市と広島市だけと言われてしまいました。やはり生徒の安全を考えてのことと思われるが、そこまで必要な・・・？サッシも東日本の震災の影響か全国で工事が集中する夏休みに向けての発注ですから、6月には全てを決定しないと間に合わない・・・のだそうです。せめて補強構面の色ぐらい決めさせてほしいのですが、監理は営繕課でということなので提出してしまうともう関係なくなってしまう。
2. 今幼稚園は園児が少なく保育園は待機児童でどこもいっぱいという状態です。そこで法律も変わり、幼稚園で乳幼児を受け入れる事になりました。既存の幼稚園に0歳児受け入れのための保育室づくり、給食配膳室（給食室ではない）が必要になりその仕事を2件しました。直接幼稚園とは打ち合わせができないので（営繕課、教育委員会を通します）意志の疎通ができなかった例がありました。リズム室に全開放のサッシがほしいと言うことで、私は全解放というとパタパタ折りたたむサッシだと思ってしまいましたが、園側では4枚か6枚の引き戸のこと

- だそうです。（6枚になると無目が持たない）完成後に園長から園児が指を挟むとクレームをつけられました。もちろん指詰め防止のゴムはあるのですが、直接の打ち合わせは必要だと思いました。
3. 知り合いの工務店から確認を取ってほしいといわれ、久しぶりにフラット35住宅金融公庫の申請をすることになりました。久しぶりに見る木造住宅工事仕様書がずいぶん分厚くなっていました。チョイスする金利によって耐震等級や省エネ基準が違ってきて何か書類が多くなったなあ・・・と感じながら無事完了しました。
 4. 特殊建築物の定期報告は時々知り合いから頼まれます。共同住宅が多いのですが、施工されたときから、どうしようもない不具合がある物件に遭遇すると、きちんと最初から設計事務所に頼んで工事をしてね・・・といいたくなります。
 5. 住宅瑕疵担保保険の検査はこのところ基礎の配筋検査が多いです。昔の布基礎は見かけられなくなりました。鉄筋量コンクリート量ともに多いですが、掘削がなく埋め戻しもないべた基礎のほうが結局は工程的に早く済むのでしょうか。SWS調査をするとたいいていの場合補強が必要で表層改良や柱状改良杭が多く見受けられます。
 6. 裁判所における調停や弁護士会の紛争処理の仕事も時々入ってきます。裁判所はあまり足を踏み入れたくはないのですが、最近は些細なことでももめてるケースが多いです。やはり最初のボタンの掛け違いからか、いつ誰でも対象になってしまう・・・ということはこの仕事をしている皆が心しておかなければと思います。時々消費者センターの相談もあり、まだ悪質な業者による被害があります。
 7. 今一番頭を抱えているのは友人の妹の家の新築工事です。（家にかける）お金はない・工務店の兄ちゃんの新築やったことない施主の知り合い。おまけに高い・・・。さてこれからこの仕事をどう納めるか、頭の痛いところです。種々雑多な仕事をしています。

私の父はとてもおもしろい人で、中学校の頃、学校の図書室にはまだ入っていない美術全集を買ってくれたり、小学校の頃から友達と一緒に洋画を見に連れて行ってくれる事も度々でした。

私が20代の頃、父は数年に渡って「美しい建築」という本を購読しており、私もこの本を見れるのがとても楽しみでした。

それが、研究の成果を見ないままに、父は他界。。。。。家が自営業でしたので、バタバタとした忙しいだけの何年かが過ぎました。

次には、日曜日の新聞の広告が入ってくる新築の家の間取りを見ては、鉛筆でチェックラインを入れていたのを思い出します。

もっばら、ここ狭い！ここ通りにくい！と。

(私が大きいからでしょうか)

……………休日の私の楽しい作業でした。

そして40歳の頃、一般事務で今の会社へ就職したのですが、ほどなく、線引きの練習をしてほしいとの依頼が。周りには図面を書く人が誰もいなく、家から洋裁のものさしを持って来ての始まりでした。

ある日、お手本に大きな四阿（あずまや）の図面を頂きましたが、どの線が前に来て、どの線が後になるのかが全く分かりません。

そういった所から始まったのです。

唯一の作図の経験は、中学校の家庭科の授業での椅子の図面を皆で書いた事だけです。

皇太子ご夫妻がご結婚なされた時に、奈良へ来られるとの事で、馬見丘陵公園の「結びの広場」と名付けられたゾーンに四阿（あずまや）とか周辺の柵の設計協力依頼が、大阪のコンサルさんから会社へ入ってきました。これも、雛型図面を頂いての事ですが必死で平面図、正面図、側面図を半日で書きました。手書きです。

この時、屋根の形を私なりに少し変化を加えました。梁までの高さの具合が掴めなくて困りました。

完成になった四阿（あずまや）を見た時、直感で180mm低いと心の中で思いました。後にお役所の方は、200mm低かったとおっしゃいました。

屋根の形状は良かったです。

この頃から、本格的になってきたように思います。全く最初の頃、工場に入ってみると、ビス穴一つ、私が図面に書き入れたところが、全くそのままに穴が開けられているのを見て、とても新鮮で驚きで、そして嬉しかったです。

同時に、シンプルな平ベンチでも自分で寸法を決めてゆく難しさも感じました。

こういった所から今に至っていますが、近頃はとみに、責任というものを痛感します。

もっとお勉強を！…という気持ちと、もうこれ以上は無理なのかなという気持ちとが見え隠れします。ですが、又忙しくなってきました。

奈良県内の事業で、コンサルさんからの図面協力依頼があり、4基の複合遊具をお手伝いする事になりました。その遊具は山の遊具で、二上山・畝傍山・耳成山・三輪山と名付けられています。

資料を見た途端、まあ……！！と、心底から大きく明るい思いが湧き上がってきました。

それは、……三輪山のふもとで生まれ育ち、今に至り、畝傍で高校時代を過ごし、体育の授業の時には耳成山へ皆で走り、二上山は、柳本―三輪辺りからは本当に美しいラインで常に眺めていたし、本当に毎日の生活の中にある山々だったのです。

又その依頼の日は、母の四十九日のあくる日であった事を思うと、二重に不思議で大きく勇気づけられました。

……………そして士会の皆さんとの交流も……………



二上山



畝傍山



耳成山



三輪山

今後の事業予定

平成 24 年

- ☐ 4 月 23 日（月）～ 5 月 14 日（月）
平成 24 年度一級建築士試験申込書配布
- ☐ 5 月 7 日（月）～ 5 月 14 日（月）
平成 24 年度一級建築士試験申込書受付
- ☐ 5 月 24 日（木）
総会（奈良県文化会館）
- ☐ 6 月 8 日（金）
平成 24 年度第 1 回定期講習（奈良県産業会館）
- ☐ 10 月 19 日（金）
第 54 回建築士全国大会「茨城大会」
- ☐ 12 月 1 日（土）
第 32 回近畿建築祭「奈良大会」

平成 25 年

- ☐ 1 月
新年会予定
- ☐ 2・3 月
女性委員会単独見学会（1 日日帰りコース）

～編集後記～

花粉症の季節も過ぎ、この号が出る頃は新緑薫るすがすがしい頃と思います。

今回もご多忙の所ご寄稿いただいた皆様、大変ありがとうございました。

山下様・山本様の全建女の記事は参加せずとも内容がよくわかりました。庄田様の出石ツアーは私も一緒に多くの見学場所を巡った気になり楽しかったです。上田様の記事は日常のお仕事の様子が伺え、率直にああこういうお仕事があるんだなあと無知の私には驚きと勉強になります。大原様の記事は現在に至られた経緯がわかり、そして最後は奈良の山々の美しい景色が思い浮かびました。

フープからはいつも驚き、元気、励み、勉強の力をもらいます。恐らく私以外にも同じ思いの方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

今回号で私はフープ担当が卒業となります。お世話になった皆様大変ありがとうございました。

前田 晴子

